

盛岡市内最大規模の町屋 徳清



明治17年（1884）の河南大火の教訓から、明治20年（1887）前後にかけて土蔵造りによって建築された。北上川の明治橋際、仙北町角に瓦葺の壮大な屋敷と高い堀が続く。

寛文年間に初代が徳田村から移ったことから屋号を「徳田屋」とし、徳田屋清右衛門と名乗ったことから「徳清」と呼ばれた。米穀商、大地主として明治から大正期にかけては県内1位、2位の多額納税者で、原敬の有力な支援者でもあった。

母屋だけでも200坪に及ぶ市内で最大規模の町屋である。仙北町の通りから土間を通して、中央部に広い荷捌き場と常居、その奥に田ノ字の本座敷を中心に三方を庭で囲み、渡り廊下で北上川側に盛岡城より移築された勘定奉行所の御殿座敷、西側には三棟の大きな土蔵が繋がる。

常居に続く台所部分は建築家フランク・ロイド・ライトの弟子で自由学園「明日館」（国重分）の設計者・遠藤楽の設計という。外からは覗い知れない豊かで多様な空間が広がる。

（もりけん本スニーカー ver.2より）

